

令和8年度 病害虫防除情報

令和8年8月31日
発表：福島県病害虫防除所

秋冬ネギでシロイチモジヨトウが多く誘殺されています。
防除を徹底し、被害を防ぎましょう。

- 1 対象作物：秋冬ネギ
- 2 病害虫：シロイチモジヨトウ
- 3 対象地域：浜通り
- 4 発生量：やや多い
- 5 発生状況

8月上旬に実施したいわき市内の秋冬ネギほ場（4件）の定期巡回調査において、シロイチモジヨトウ幼虫の発生ほ場割合が50%となり、例年（2023～25年の平均）と比較してやや高かった（図1）。

いわき市の秋冬ネギほ場に設置しているシロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査では、7月第3半旬以降から8月第4半旬にかけて継続的に誘殺が確認されており、誘殺数は例年と比較してやや多かった（図2）。

仙台管区气象台が8月27日に発表した東北地方1か月予報では、向こう1か月の気温が平年より高いと予報されており、本種の発生が増加すると考えられる。

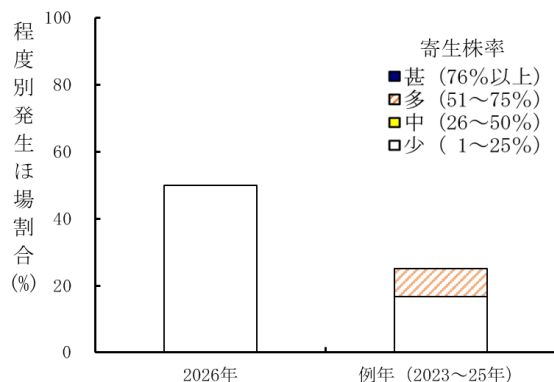


図1 秋冬ネギにおけるシロイチモジヨトウ寄生株率

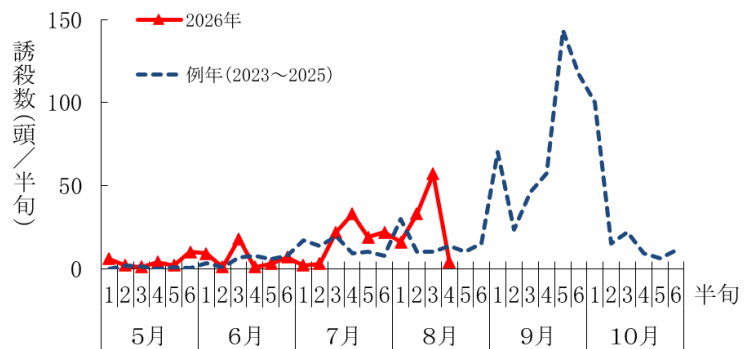


図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況
(いわき市平下神谷：秋冬ネギ)

6 発生生態

- (1) 本種は広食性でネギ、キク、トマト等の様々な農作物を加害する。
- (2) 本種の成虫（写真1）は卵塊で産卵し、卵塊の表面に灰色の鱗毛を付ける。
- (3) ネギではふ化幼虫がネギの表皮を食害する。幼虫の齢期が進むと葉身内部に食入し表皮を残して食害する（写真2）。
- (4) 葉身内部に食入した幼虫の虫糞が葉身内に堆積するため、商品価値が損なわれる。

7 防除対策

- (1) ネギでは葉身の内側に食入し、薬剤がかかりにくくなるため被害及び若齢幼虫の早期発見・除去に努める。
- (2) ほ場をよく観察し、卵塊やふ化した幼虫が見られる寄生葉を除去し、速やかにほ場外に持ち出し処分する。
- (3) 被害葉及び作物残さも発生源となるため、適切に処分する。
- (4) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢期に防除を行う。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける（表1）。

8 参考



写真1 シロイチモジヨトウ成虫



写真2 シロイチモジヨトウ幼虫

表1 ネギのシロイチモジヨトウに登録のある薬剤の一例(令和8年版農作物病害虫防除指針より)

作物名	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	RACコード
ネギ	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	6
	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	5
	トルネードエースDF	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	22A
	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
	プレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	UN

※上記の薬剤は、令和8年8月26日現在の登録内容です。必ず製品のラベルを確認し、最新の情報を確認してから使用してください。

現在、福島県では

令和8年度福島県農薬危害防止運動実施期間
(令和8年6月10日～9月10日)です。

- ① 農薬の使用前に、必ずラベルを確認して、登録内容をよく確認しましょう。
- ② 住宅地等で農薬を使用する際は、周辺への配慮、飛散防止対策に努めましょう。(近隣住民への周知、無風時の農薬散布)

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課(病害虫防除所)まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727